



空き家を上手に活用し 地域をよりよい環境に

社民・民主・護憲クラブ 平嶋 慶二 議員

2月24日 再質問からの一問一答方式により質問

- 1 市長の政治姿勢について (1) 後期基本計画の中間総括
- 2 安心安全のまちづくりについて (1) 老朽危険家屋等除却促進事業の実施状況と今後の対応 (2) 空き家の現状とその対策 (3) ため池の県調査結果と今後の対応
- 3 市民と協働のまちづくりについて (1) 校区まちづくり協議会の中間総括と今後の展望 (2) 町内公民館を利用した高齢者の熱中症対策
- 4 公契約条例推進について (1) 大牟田市における公契約推進の意義

安心安全の まちづくりについて

問 老朽化した家屋は3年前に比べて増えていないか。また、空き家の実態と有効活用策の考えは。

答 50年以上経過した住宅の割合は全国平均の2倍以上。空き家は2,800戸。対策として関係団体等と居住支援協議会を昨年6月に設立。

校区まちづくり協議会の 中間総括と今後の展望

問 行政への批判も少なくなってきた。地域担当職員は地域の思いを行政に伝える任務もある。人員の充実を求めたいが。

答 行政と地域のそれぞれの役割分担の中で、新しいアイデア等も検討して、これまで以上に力をいれて取り組んでいきたい。

町内公民館を利用した 高齢者の熱中症対策

問 町内公民館のクーラー設置調査を踏まえた展望は。

答 高齢者の利用を呼びかけられるなら熱中症対策のほか、コミュニケーション強化などが期待でき、とても意義深いこと。

実態調査を行っており、結果を検討して今後に生かしたい。



大牟田再生の悲願達成に 向けて大きな第一歩を

自由民主党議員団 塚本 二作 議員

2月24日 再質問からの一問一答方式により質問

- 1 今年度行財政運営の総まとめとその新年度市政運営方針への反映について
- (1) 市民の悲願・大牟田再生 (2) 定住自立圏構想の推進
- (3) 三池港の利活用の推進 (4) 2月補正予算
- (5) 新年度へ反映すべき諸施策等

市民の悲願・大牟田再生

問 この1年間、大牟田再生の悲願達成に向けて大きな第一歩を踏み出すことができたのか。

答 世界遺産本登録への取り組み、市民活動等多目的交流施設「えるる」のオープン、大牟田テクノパークの完売、子ども医療費補助の拡充、中学校給食センター・消防

庁舎の建設着手など、着実に各種施策への取り組みが進んでいる。

定住自立圏構想の推進

問 今後のさらなる方策は。

答 新年度の早い段階で(仮称)有明圏域定住自立圏推進協議会の発足に向けて最終準備を進めており、共生ビジョンに掲げる事業推

進、進捗管理を適切に行っていく。

三池港の利活用の推進

問 より一変したりサイクルポートへ果敢に挑戦する気はないか。

答 酒田港の先進的な取り組みを参考にするなど、よりリサイクルポートとしての機能を発揮し、同産業の立地促進に向け努力したい。



労働者、事業者、公共事業を 守る公契約条例の制定を

日本共産党議員団 高口 講治 議員

2月24日 一問一答方式により質問

- 1 公契約条例について (1) 公契約条例制定への取り組み
- 2 まちづくりについて (1) 自治基本条例とまちづくり基本条例 (2) 中心市街地と周辺地域の活性化
- 3 世界遺産登録事業について (1) 宮原坑跡周辺地の取得等
- 4 C0中毒患者救済問題について (1) 大牟田吉野病院における現状と課題
- 5 教育委員会制度改革について (1) 国の検討状況及び本市の見解

公契約条例制定への 取り組み

問 同条例実施自治体では、賃金や労働環境の改善、事業者の経営健全化、公共事業の質の確保、地域経済活性化などの効果が証明されている。本市も創設への積極的な検討を行うべきだと考えるが。

答 まずは国の法整備が望ましい。条例創設の理由には一理あるが、

事務量が膨大になる問題もあり、さらなる検討が必要。国や他の自治体の動向を注視していく。

自治基本条例と まちづくり基本条例

問 地方分権・主権の時代に、情報公開や情報提供、政策監視機能など、自治体の責務と住民の権利を定めた、自治体の憲法的な位置

づけとなる、フルセット型自治基本条例を優先的に策定すべきではないか。

答 これまでの協働のまちづくりの理念を踏まえ、まずは市政への市民参加や市民活動の促進を目的とした市民参加・協働型条例である「まちづくり基本条例」の制定を目指している。今後、指摘の条例も議論されてくると思う。